

創書～歴史とロマンの宝庫～

書道コース 創書



講師
堀井
桃蓮
ほりい
とうれん

略歴

書家

伊藤穿石(楷書)、片岡紫江(古筆仮名)に師事。墨書会書道展特選受賞。「書は個なり」「書は抱懐を散ず」をモットーに「自己人生の文字を書くこと」「日本固有のひら仮名文字の継承」を提唱する。「歴史スペシャルもう一つの歴史『芭蕉の苦悩と決断そして恋』(古谷一行主演)を始め、テレビ番組のタイトル文字も手がける。

advice points

- 会場は、書道教室が望ましい。
- 筆、墨、紙などは多種類を準備すると、創作の幅が広がる。

より発展的な ワークショップを 実施するために

- 創書による日記をつけてみる。
- 四季に合わせて創書をしてクラスで発表する。

目的

- ・漢字から仮名文字が発生する背景には、平安王朝社会の男女の歌の交流があったことを認識する。
- ・当時の書の技法を学び、現代に通じる表現センスや、創作の姿勢を磨く。

効果

- ・創作に必要な表現方法(技法と空間構成)を学び、知識と書の広がりを培う。

到達点

- ・文字作品は誰にもまねのできない唯一のものであること、「書は個なり」を実感する。



事前学習

先入観を持たずに受講するのが望ましいため、不要。

ワークショップの流れ(2日間×2コマ/日)

仮名文字の成立についての解説



48の仮名文字の形から、元の漢字を確認



「錐画沙(すいかくさ)」技法で作品創作



恋愛歌など親しみやすい現代短歌を音読し、鑑賞



短歌の文字配列など、空間構成を学習



講師が例示した短歌の中から好きな短歌を選び、「錐画沙」技法で創書の演習

事後学習

創作した作品を教室に掲示し、合評する。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

「錐画沙」の技法は飲み込みが早かったが、平仮名創出の歴史的背景は理解しにくいようだった。現代短歌がすでに生徒たちの感性に合わないなど、世代間ギャップを痛感した。彼らの文化について予備知識があれば、もっと心躍らせる教材が用意できただろう。無限の可能性をもつ人材集団に触れ、自分自身の想像力を育てる意味でも価値ある体験だった。

先生の感想

仮名文字の歴史や成り立ちに対する関心と、書を自由に創作する楽しさを学べた。教科書とは違った内容だったので、生徒たちには興味深く感じたようだ。次にこのような機会があれば、1年生ではなく、2・3年生を対象に、少人数で受講する方がより効果的だと思う。技術面では、細筆など道具の種類について、もう少し詳しく学ばせたいと感じた。

生徒の感想

- ・自分の文字で色々な表現ができて、自分が気づかなかった力に気づいた。
- ・字の書き方、平仮名の成り立ちや文化を、楽しく理解することができた。
- ・集中して字が書けるようになって、習字の時間がとても楽しくなった。
- ・想像力や個性を磨けたし、書道のよさを外国の人にも広めたいと思った。